石油化学工業協会

２０２６年２月実績概要（メモ）

（２０２６．３．２４）

大定修年における定修シーズン入りから、エチレン及び誘導品生産は大方が前年を下回る。

１．生　産　動　向

イ）エチレン　３３４，２００トン

前　月　比　　▲２２．９％（▲９９，３００トン）
前年同月比　　▲１７．９％（▲７２，９００トン）

生産増減に係る諸要因	＜前　月　比＞	＜前年同月比＞
日数増減	▲　９．７％	－
定修要因等	▲１３．１％	▲１７．６％
能力増減	－	－
稼働率変動	▲　０．１％	▲　０．３％
生産増減率	▲２２．９％	▲１７．９％

稼働プラントの実質稼働率試算：前月７５．８％ → 当月７５．７％ ← 前年同月７５．９％
定修プラント：前月　１社１プラント　→ 当月　２社２プラント　← 前年同月　なし

ロ）主な石油化学製品

前月比は、日数減に加え、稼働率要因や定修規模差から、LDPE、HDPE、PP、SM、塩ビモノマー、AN、SBR、BR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの１４品目がマイナス。EO、EG などの３品目はプラスとなった。

前年比では、稼働率要因や定修規模の増加等から、LDPE、HDPE、塩ビ樹脂、MMA モノマー、SBR、トルエンなどの１５品目がマイナス。AN、キシレンの２品目のみはプラスとなった。

２．樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ）生　　産

前月比は、日数減と定修規模差及び稼働率要因から、LDPE、HDPE、PP はマイナス。PS は主に稼働率要因から微増となった。

前年比は、稼働率要因や定修規模差等から、LDPE、HDPE、PP、PS の 4 樹脂ともにマイナスとなった。

ロ）国内出荷

消費のマインドは、暮らし向きや耐久消費財の購入の面で前月に比べて改善の動きが見られている。この一方で、国内の生産活動自体は、２月の予測では電子部品・ディバイス、輸送機械等で低下予測が出されており、トレンドとしても前月に対して弱気と見る動きが強くなっている。

汎用樹脂の出荷は、前月比は、ユーザー側の稼働日数の減少がある中、LDPE、HDPE、PP、PS ともにプラスとなった。前年比では LDPE、HDPE、PP はマイナス、PS は僅かながらのマイナスとなった。

分野別の出荷状況は、前年比で、フィルム等の包装材分野は、LDPE、HDPE、PP、PS ともにマイナス。

包材以外の出荷分野では、LDPE、HDPE はほとんどの出荷分野で前年を下回った。PP は射出成形分野では、工業部品向けはプラスが続くも射出成形分野全体ではマイナス。一方、押出成形分野は前月に続いてプラスとなった。PS は雑貨・産業分野に加えて FS 分野もプラスとなった。

ハ）輸　　出

アジア域内の供給の潤沢感に後退が見られるも、供給上のネックもあり輸出数量自体は低位となっている。伸び率は、前月比で HDPE、PP はプラス、LDPE、PS はマイナス。前年比では LDPE、HDPE がマイナス。PP、PS はプラスとなった。

ニ）在　　庫

在庫量は、前月に対して、LDPE、HDPE、PP で減少、PS は微増となった。在庫率(季節調整済)は、LDPE は横這い、HDPE はやや低下、PP、PS は上昇した。在庫水準としては、LDPE、HDPE、PP、PS ともに幾分か高めの在庫となっている。

	前月対比増減量（単位:トン）	季節調整済在庫率（単位:ヶ月）	
		１月末	２月末
LDPE	▲１２，３００	３．８	３．８
HDPE	▲　９，３００	４．４	４．３
P　P	▲１５，２００	３．３	３．４
P　S	＋　１，８００	１．７	１．９

以　上